

総合評価方式の試行状況について

1 総合評価方式の試行について

本県における総合評価方式については、平成18年度から農林水産部及び土木部の所管工事の中から、標準型及び簡易型について一部抽出試行を行っている。

試行件数（未執行分も含む。）

	農林水産部		土 木 部		全 体		
	簡易型	標準型	簡易型	標準型	簡易型	標準型	計
平成18年度	2	-	6	-	8	-	8
平成19年度	13	1	54	16	67	17	84
計	15	1	60	16	75	17	92
	16		76				

2 実施状況及び試行結果について

総合評価方式は、価格だけで評価していた従来の落札方式と異なり、企業や配置技術者の技術力、企業の地域社会に対する貢献度、施工計画の適切性等、価格に加えて価格以外の要素を含めて評価する落札方式である。

試行結果については、落札率や参加業者数に加えて、総合評価における価格逆転の割合や土木部で試行している評価値算出における基準価格設定型による効果、更には各評価項目における入札参加業者の獲得割合等に着目し分析する。

分析に当たっては、平成18年度案件は、入札改革以前の条件等による試行であることから、平成19年度の案件を対象とし分析する。

試行結果は別紙のとおり。

3 今後の試行結果検証について

今後の試行結果の検証に当たっては、総合評価で実施された工事が通常の価格競争で実施された工事と比較し施工状況や品質確保などの観点から、どのような差異があるかについて、工事完成後に評価される工事成績評定等を加え検証を行い、総合評価方式の本格導入に向けて検討を行っていく。

平成19年度総合評価方式結果

11月末時点執行分

項目	全体			備考	試行結果
	簡易型	標準型	計		
試行件数(件)	61	16	77		11月末時点で84件中77件が執行済み(92%)
落札率(%)				条件付一般競争入札(4~11月)の平均落札率81.8%	条件付一般競争入札の平均落札率と比較するとほぼ同程度である。 簡易型、標準型の区分による大きな差異はない。
最大	100.00	93.27	100.00		
最小	70.21	74.22	70.21		
平均	81.95	80.81	81.71		
参加者数(者)				条件付一般競争入札(4~11月)の平均参加者数6.9者	条件付一般競争入札の平均参加者数と比較するとほぼ同程度である。 簡易型、標準型の区分による大きな差異はない。
最大	17.0	14.0	17.0		
最小	1.0	2.0	1.0		
平均	6.6	6.7	6.6		
技術評価点(点)	簡易(110点)	標準(120点)	標準(130点)	技術評価点の最大点 簡易型:110点 標準型:120又は130点	簡易型(110点)における最大最小の差は8.57ポイント、標準型(120点)における差は17.68ポイント、標準型(130点)における差は25.18ポイントと技術評価点の割合が大きくなるにつれ最大最小の差が大きい。 技術評価点における最小点は、簡易型、標準型の区分に関係なくほぼ同程度である。
最大	109.10	118.75	126.25		
最小	100.53	101.07	101.07		
平均	104.51	109.27	113.94		
価格逆転件数				価格が1位で落札者になれなかった案件	標準型(50%)が簡易型(21.3%)に比較し割合が高い。
件数	13	8	21		
割合(%)	21.3%	50.0%	27.3%		
落札者の状況	61	16	77		落札者における価格と技術を比較すると、価格、技術とも1位だった件数は半数以上を占めている。(41件/77件=53.3%) 価格が1位で技術力が1位以外であった案件は全体で15件、うち簡易型は13件、標準型は2件であった。 価格が1位以外の案件(価格逆転案件)では、技術力が1位であった案件がほとんどで、技術力が1位以外であった案件は3件であった。 価格技術=2位:4位 価格技術=5位:2位 価格技術=3位:2位
価格技術=1位:1位	35	6	41		
価格技術=1位:2位	7	2	9		
価格技術=1位:3位	3	0	3		
価格技術=1位:4位以下	3	0	3		
価格技術=2位:1位	5	4	9		
価格技術=3位:1位	4	0	4		
価格技術=4位以下:1位	1	4	5		
価格、技術とも1位以外	3	0	3		
基準価格設定型の効果				土木部のみ試行 簡易型:48件 標準型:15件 ()は、落札者が基準価格設定型の効果により逆転した案件	基準価格設定型の効果では、簡易型より標準型の方が適用になった案件割合が高い。
件数	14(4)	9(3)	23(7)		
割合(%)	29.1(8.3)	60(20)	36.5(10.8)		

平成19年度総合評価方式結果

11月末時点執行分

項目	全体			備考	試行結果	
	簡易型	標準型	計			
低入札価格調査件数					低入札価格調査制度の対象案件の割合は、簡易型より標準型の方が割合が高い。	
件数	13	7	20			
割合(%)	21.3%	43.8%	26.0%			
評価項目における入札参加者の獲得割合(%)						
企業の技術力(5点)	施工能力(1点)	79%	53%	73%	企業の技術力を評価する項目では、施工能力、工事成績、品質管理において入札参加者の獲得割合が高いが、優良工事、技術者確保数においては、入札参加者の3~4割程度しか獲得していない。	
	工事成績(1点)	79%	61%	75%		
	優良工事(1点)	29%	38%	31%		
	品質管理(1点)	72%	88%	76%		
	技術者確保数(1点)	49%	44%	48%		
配置予定技術者の技術力(4点)	施工能力(1点)	42%	26%	39%	配置予定技術者の技術力を評価する項目では、各項目とも入札参加者の獲得割合は少ない。中でも優良工事の項目では入札参加者の1割程度となっている。	
	工事成績(1点)	50%	47%	49%		
	資格保有(1点)	17%	27%	19%		
	優良工事(1点)	8%	12%	9%		
企業の地域社会に対する貢献度(9点)	障がい者(0.5点)	21%	35%	24%	企業の地域社会に対する貢献度を評価する項目では、地域経済、ボランティアの獲得割合が高く、環境配慮、次世代、新分野は2割程度と少ない。	
	安全管理(0.5点)	48%	69%	53%		
	環境配慮(0.5点)	11%	29%	15%		
	地域経済(1.5点)	83%	61%	78%		本店所在地、県内業者活用等
	ボランティア(4点)	63%	50%	61%		
	次世代(1点)	10%	18%	12%		
	新分野(1点)	16%	26%	18%		
施工計画(10点)	施工計画(10点)	3.86点	4.09点	3.91点	入札参加者平均点数	施工計画では、4点程度が平均点となっている。
標準型	技術提案(10点)	-	4.88点	-	入札参加者平均点数	技術提案では、5点程度が平均点となっている。
まとめ	<p>1 価格逆転件数によると簡易型で20%程度、標準型で50%となっているが、総合評価方式の趣旨や最近の低入札の状況からすると高い割合ではないことから、今後、標準型、簡易型の技術評価点の割合を高め試行を行う必要があると考えられる。</p> <p>2 基準価格設定型の効果では、全体の1/3程度の案件で適用になっていることから、引き続き実施する必要があると考えられる。</p> <p>3 評価項目については、地元の安全安心を担う企業を適切に評価する観点から、除雪や災害等に対応した企業を評価するなど、評価項目の見直しも必要と考えられる。</p> <p>4 低入札価格調査制度の調査対象案件は、全体の30%程度となっていることから、他県の事例等を考慮し、失格基準等の設定が必要と考えられる。</p>					